

令和5年度 分掌ごとの成果と課題・課題解決の具体的方策

重点 目標	分掌	目標	目標達成のための具体的方策	令和5年度の成果と課題	評価 A+～C	課題解決のための具体的方策
確かな学力の育成	教務部	学習評価方法の工夫および学習指導方法の改善を推進する。	(1)相互授業参観週間や研究授業等を活用して日々の授業における各教員の授業実践の共有を推進する。 (2)授業評価アンケートや保護者アンケートで改善点を確認し、学校全体での共有を図る。	(1)相互授業参観週間や研究授業等を活用して日々の授業における各教員の授業実践の共有することができた。学科の枠を越えた共有をさらに推進したい。 (2)授業評価アンケートの結果を職員間で共有し、個々の授業改善に活かすことができた。	A	(1)相互授業参観週間や研究授業等を通して、各教員の授業実践について学科の枠を越えた共有を図る。 (2)授業評価アンケートで改善点を確認し、学校全体での共有を図る。
	情報管理部	情報機器などの管理・活用	(1)授業や校務が円滑に行えるように、情報機器やネットワークの整備・メンテナンスを行う。 (2)現職教育を実施することでICTを活用した授業づくりを推進する。	(1)昨年度末に教育用パソコンの更新となり、作業が円滑に行われるようになった。機器のメンテナンスは速やかに事務室経由で業者に依頼し、授業や校務に支障が出ないように対応した。教育用パソコンについては2件、生徒用タブレットは2件、教員用タブレットは1件修理を行った。 (2)デジタル採点講習会を行ったが、授業づくりに生かせる講習を選定することが課題である。	A	(1)機器の異常を放置せず、直ちに事務室経由で業者に対応を依頼する。 (2)ICT支援員活用事業の一環として、ICT支援員の協力を依頼しICTを活用した授業づくりを推進する。
	機械科	基本的な公式の活用ができるようにする	授業・検定を通して、式変形ができるようにする。	今年度計算技術検定3級を受験した全員が合格したことで一定の成果をあげることができた。しかし、授業内で様々な場面で継続できるよう、計画することを検討したい。	A	計算技術検定を活用し、全員の合格を目指す。
	電気科	専門科目における基礎学力の充実	(1)専門科目では、問題を解く力をつけるため、問題演習や確認テストを行う。 (2)放課後などの時間帯や長期休業日を活用し、生徒の資格取得を支援する。	(1)週1回の科会等で自作プリントの情報交換を実施した。生徒アンケート結果から学習に役立つと答えた生徒は90%以上であった。 (2)授業や単元のスタート時に各自で目標設定させることで自己評価の向上につながっていると思うが、生徒の変化を正しく評価していくことは今後の課題である。	A	1年生の3学期から、資格に関連した演習問題や技能問題などに取り組みせる。2年生の年度当初に問題を解かせ、弱点部分を見つけ対策していく。
	建築科	生徒の学習意欲の向上を図る	(1)科職員で協力して、生徒が予習や復習に活用できる教材研究をする。 (2)授業等で感想やアンケートを活用して、生徒自己評価の向上を目指す。	(1)週1回の科会等で自作プリントの情報交換を実施した。生徒アンケート結果から学習に役立つと答えた生徒は90%以上であった。 (2)授業や単元のスタート時に各自で目標設定させることで自己評価の向上につながっていると思うが、生徒の変化を正しく評価していくことは今後の課題である。	B	(1)今後も本校生徒に合った適切な補助教材を職員が作成できるように互いに改良を繰り返して行う。 (2)生徒が学ぶ意欲を持ち続けるように適切な難易度の課題を準備し、目標と評価をセットで比較する。

キャリア教育の推進	進路指導部	職業観・勤労観の育成と適切な進路選択	(1)自分の適性に気づき、進路選択の指針になるように様々な実習を体験させる。 (2)自分の将来像をしっかりと確立させ、そこに至るための自分に必要な情報や知識を得るために、ガイダンスや進路講話を活用する。 (3)発達障害等を抱える生徒を外部機関との連携も含めてフォローしていく。	(1)各科内の実習等を通して自分の興味・関心や得意不得意を実感させることができた。(2)ガイダンスに企業の参加もお願いし、生徒の進路意識を高められた。(3)外部機関との連携により障害を抱える生徒の進路実現・就職後のフォローアップをサポートできた。 課題としては、生徒がより多くの企業の特色を知った上での進路先選択ができるようにしたい。また、1・2年生の中にも、発達障害等を抱える生徒がいて進路選択に困っている。	A	(1)卒業生が就職している進路先ばかりではなく、地域に幅広く人材を輩出できるように、ハローワーク等が主催する校内企業説明会等を利用して、推薦できる県内企業を紹介する機会を増やす。 (2)何らかの障害を持つ生徒に関しては、今年度に引き続きハローワークやさぬき若者サポートステーションなどと連携を行い、支援していく。
	化学工学科	資格取得の充実と地域企業や教育機関との連携	(1)課外や補習だけでなく、希望者に対して個人的に指導することで、卒業時における危険物乙種の取得率を40%以上および乙種全類取得表彰生徒輩出を目指す。 (2)工場見学、企業実習などの実技指導講習会または外部講師による授業を各学年とも1回以上実施し、生徒の満足度が80%以上を目標とする。	(1)課外・補習および個人指導などを実施したが、今年度卒業生の乙種取得率は30%にとどまった。乙種全類表彰生徒も排出できなかった。 (2)1・2年生は工場見学、3年生はプロ講師による授業をそれぞれ実施した。また、1・2年生は3月にキャリア出前授業も実施する計画である。なお、生徒の満足度調査は未実施であった。	B	(1)個人指導の際、苦手としている分野を把握と指導に重きを置く。そのためには、複数人での対応も視野に入れる。また、資格取得の重要性をことあるごとに周知する。 (2)感想や報告書用紙中に、満足度の項目を追加する。
地域と連携した信頼され魅力ある学校づくり	総務部	PTA活動の充実	(1)学校行事への積極的な参加を促すために、保護者宛に案内を通知する。 (2)坂出地区高P連の合同登校指導を充実させるため、呼びかけを行うことで参加率を90%以上にする。	(1)メールシステムも活用して適切に案内でき、体育祭や坂工展に例年以上の参加があった。研修旅行については参加希望者が少なかったため中止となった。 (2)坂出地区高P連の合同登校指導の参加率も90%であった。	A	引き続き、適切な時期にメールシステムなどを活用して案内する。研修旅行については保護者のニーズをとらえ、内容や時期を再考する。
	教務部	(1)メールシステム運用の充実 (2)行事や学校運営に関する事項を整理・調整して円滑な学校運営を進める。	(1)メールシステムを継続的に活用して、緊急時の連絡や事務連絡を行う。 (2)職員間で連携して業務内容を整理し、その改善を図る。保護者等へのアンケートを活用して運営方法の改善を図る。	(1)メールシステムでは9割以上の保護者に登録いただき、緊急連絡や事務連絡を行うことができた。年度途中より欠席連絡をメールで受付できるようになった。 (2)教務部に係る業務について、職員間で連携し調整を行いながら運営することができた。アンケートの結果から、学校運営の改善案を検討することができた。	A	(1)継続的にメールシステムを活用し、緊急連絡や事務連絡を行う。(2)継続的に職員間で連携し、業務内容を整理して、その改善を図る。今後もアンケートの結果から、学校運営の改善案を検討していく。
	保健部	生徒がより主体性を持って取り組めるようにする	(1)教育環境の保全を意識させるため、学校薬剤師が実施する水質・照度・空気の各検査を生徒保健委員が一緒に行う。 (2)保健委員の取り組みを「保健だより」に掲載し、生徒が保健委員としての自覚と主体性を持って取り組めるように工夫する。	1、2年生は学年ごとの保健委員の役割をこなし、3年生は自分たちが取り組みたい保健活動を展開し、学校保健安全委員会にて発表をした。また、保健だよりも掲載した。1、2年生の自発的活動がみられなかったのが今年度の課題である。	A	3年生を中心とした保健委員の活動に、1、2年生を交えた取り組みを展開し、先輩からの学びの機会を増やす。
	施設整備部	災害時の地域支援と危機意識の醸成	(1)災害発生時に地域住民の避難場所としての役割を果たすため、県及び坂出市と連携して、食糧の備蓄などを行う。 (2)地域の自主防災組織などとの連携を深めるため、防災訓練を合同で行う。	(1)十分な量の確保ではないが、期限切れの備蓄品の入れ替えを行った。(2)コロナ禍で実施できていなかった地域住民・関係機関・自主防災と連携した地域合同の防災訓練を再開実施した。	A	(1)県や市との連携を十分に行う。 (2)内容や時間配分など協議し、より実践的な訓練になるよう対応する必要がある。

社会人としての規範意識の醸成	生徒指導部	外部との連携による安全教育の充実と規範意識の高揚	(1)全校生徒を対象に、安全教育に関する生徒指導講座を年間 3 回、交通に関する LHR を年間 2 回実施する。その際、講座の内容を精選し、警察等の外部機関など幅広く講師を招へいする。 (2)現在実施している月 1 回の校外補導を継続する。	(1)全校生徒を対象に、安全教育に関する生徒指導講座を 3 回実施した。また、交通に関する LHR を 2 回実施した。 (2)計画どおり、月 1 回の校外補導を実施した。	A	(1)交通に関する講座の実施方法を選定し、交通法規の遵守を定着させる。また、講師についても 警察以外の外部機関についても検討する。 (2)他校との情報交換を密にし、問題行動を未然に防ぐための校外補導を実施する。
	人権・同和教育部	人権の大切さや人権問題についての理解と認識を深め、課題解決のために積極的に行動しようとする態度を育成する。	(1)人権課題解決に向けて、さまざまな情報(ニュース)を周知し、生徒間、教員間、生徒-教員間で共有できるようにする。 (2)現職教育を推進する。	(1)保護者向けの「人権だより」を作成、配付し、また、人権委員を通じて啓発資料を教室に掲示し、周知した。 (2)教員が人権に関する講演会に参加する機会が少なかった。	A	職員朝礼や職員会議、分掌の会などで講演会の概要や講師について具体的に紹介し、教員の参加を呼びかける。
	機械科	将来の職業人としての意識の向上	(1)工業技術基礎、課題研究、実習を通して、5S「整理、整頓、清掃、清潔、しつけ」を意識した学校生活を送るよう指導する。 (2)工業技術基礎、実習の指導書等の作成に取り組む。	(1)個々の実習後の清掃、片付けについては評価できる点が多々あったが、全体を見たときに徹底できているとは言い難い。このことについての周知の徹底が必要である。 (2)できたところは良かったが、多様な場面での確認が徹底できていなかった点を改善しなければならない。	B	(1)このことについての必要性についての周知の徹底。 (2)チェック機関の構築が必要である。
豊かでたくましい心の涵養	生徒指導部	いじめの未然防止及び早期発見	(1)全校生徒を対象に、いじめに関するアンケートを年間 3 回実施する。 (2)必要に応じて生徒指導部会を開き、情報の共有に努める。	(1)年間 3 回のいじめに関するアンケートを実施した。 (2)必要に応じて、生徒指導部会を開き、生徒の状況や情報などを共有し、指導に生かした。	A	(1)アンケートの内容について見直し、生徒の実態に応じたアンケートを実施する。 (2)生徒の様子などを常に情報交換を行い、早期の対応に心掛ける。
	特別活動	(1)部活動の活性化 (2)芸術鑑賞の実施	(1)部活動指導において、入学希望生徒の減少を抑えるためにも本校の特色である、活発な部活動運営を行うために専門指導のできる顧問を配置し、ものづくりと部活動の活性化を目指す。 (2)3 年に 1 度の芸術鑑賞の実施年度である。新型コロナウイルスの状況を踏まえつつ、生徒が文化・芸術に親しみを持てるような行事にする。	(1)各部活動において一定の成果を出すことができた。また運動部や、ものづくり技術部において全国大会等で活躍が顕著であった。 (2)瀬戸内サーカスファクトリー様を迎え、普段目にすることの無いパフォーマンスを目の当たりにした。また、体験コーナーもあり、芸術に親しむことができた。	A	部活動活性化について、継続して専門的指導ができる教員を顧問に配置する。また、外部指導者や部活動指導員などを活用し、より専門的な知識・技術が身に付けられるよう配慮する。
	教育相談部	生徒支援に対する質の向上を図る	教員研修として、次の二点を行う。 ①1 年に 1 回以上の教員研修会を実施する。 ②学期に 1 回教員向けの教育相談啓発資料を作成する。	①現職教育として 8 月に香川大学谷渕真也先生による講演を実施した。②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーに、学期に 1 回教員向けの教育相談啓発資料作成を依頼し、発行した。	A	①現職教育の内容について、アンケートを参考に講師を検討する。また、講師との日程調整も早めに行う。 ②本校の生徒の実情・教員の日々の取り組みを早く知っていただき、内容について話し合いの上決定する。その際学校生活アンケート等本校で実施している心理検査も参考にさせていただく。